

例会報告
「藻場の生き物観察会」
伊万里市（2025.9.23）

例会当日の県内は、午前中まで雨が残り、開催が心配されたのですが、昼からは晴れ間がのぞき、予定通りの開催となりました。集合場所のイマリンビーチには、7家族22名の団員さんが集まりました。ビーチにあるトイレやシャワー施設は、シーズン終了で閉鎖されていましたが、今回は特別に許可を得て、開放していただきました。

今回の講師として、前田修之先生、濱野大作先生に指導していただきました。実はお二人にはちょうど1か月前、8月下旬に実施した下見にも同行いただき、準備を重ねていたのです。

当日の干潮時刻は16:20。潮が引いて、海面が下がり、砂地が広がっていきました。さっそく、海に入り、生き物を探して行きました。子どもたちには安全のためにライフジャケットを着用してもらいました。足元にはたくさんのヤドカリが波打ちぎわを求めては忙しそうに移動している様子が見えました。

そして、コアマモがたくさん生息していました。コアマモは、日本全域に生息する多年草の沈水植物ですが、近年、沿岸の組立てや水質の悪化により個体数が減少しており、準絶滅危惧種に分類されています。その近くに、タツノオトシゴやヨウジウオを見つけることができました。タツノオトシゴは、ヨウジウオ科なので、ヨウジウオと一緒にコアマモなどの藻場に隠れて生息しているそうです。また、前田先生によると、最近海の砂漠化が進んでおり、その原因の一つにアイゴ（九州では別名で“バリ”と呼びます）のような海藻を食べる生き物の増加も見られるとのことでした。今回アイゴの幼魚を見つけることができましたが、アイゴの背ビレには毒があるために注意が必要とのことでした。

子どもたちはいろんな生物を見つけては前田先生や濱野先生に名前を聞きに行っていました。アカエイやタコクラゲ、トゲアメフラシなども採集することができました。

生き物採集を終えて、みんなで採った生物を観察しました。たくさんの人数で採集したので、1か月前に下見した時よりもたくさんの種類が採れました。前田先生に一つ一つ生き物の様子が分かるように専用の水槽に入れて、説明をしていただきました。タイワンガザミには、全部で10本の脚がありますが、最後の第五脚（一番後ろの足）が他の足とは違い、平べったくてヒレのような形をしています。まるでオール（ボートを漕ぐ道具）みたいに水をかいて泳ぐことができます。おかげで、海の中を効率よく移動できます。有明海で採れる竹崎ガニの脚も同じ仕組みだそうです。それ以外にも、生まれて間もないであろうイカの子や、テッポウエビ、アミメハギなどたくさんの生き物の説明に、子どもたちは目をキラキラ輝かせては、興味津々で聞き入っていました。家に帰って育てるためには、人工海水などの準備が必要ですので、今回採集したほとんどの生き物をまた海へ戻してやりました。例会が終わる17時半頃には、西の空の太陽が伊万里湾を照らし、とても美しい景色を見ることができました。今回私たちのためにご指導いただいた前田先生、濱野先生に感謝申し上げます。ありがとうございました。

（参加者：27名 スタッフ含む）



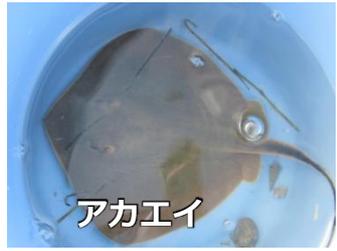
集合して本日の日程を聞く



さっそく採集開始！



コアマモ



アカエイ



トゲアメフラシ



タコクラゲ



ヨウジウオ



真剣に生き物を探している



前田先生から説明を聞く



前田先生の話に興味津々



タツノオトシゴがいるよ